

勝見名跡誌

四下

和書門			
二九	二八	二四	二八
冊	架	函	號

內閣文庫			
五	二九	二八	和書
冊	架	號	類

地

内一〇九九四號

内閣文庫			
番號	和	29288	
冊數	8 ( 5 )		
函號	175	123	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



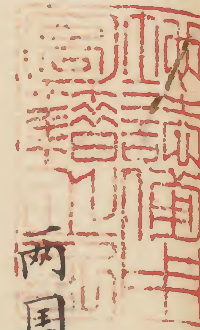


Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

孫 又 名 孫 志 四 下

ナリキニ下 孫 志 四 下





两国梶之助カ墓

内一〇九九四號

新所村之所ハツレヨリニ所許ニ東ノ方ノ山

下母木 坂ヲ鳥取ヨリ来レハ坂ノ西ノヲリク

左方ニ通ル道ヨリ少シ小タカキ所ニ西

国梶之助カ石塔アリ此所ニ母木ノ村ノ亡者

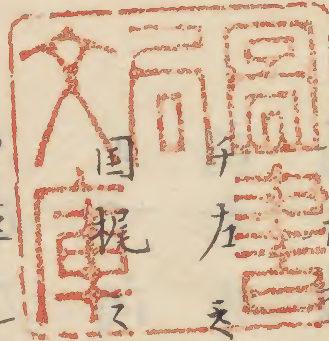
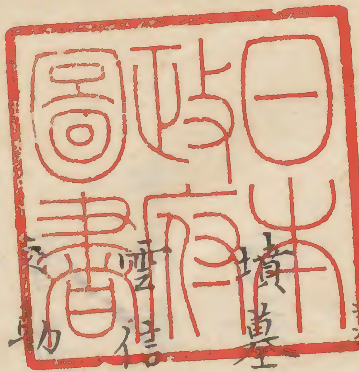
ル所ナレハ梶之助カ墓ノ外ニハ大小ノ

墳墓多クアリ梶之助カ石塔ニハ法名春山登

士宝永五年戊子正月廿四日俗名两国梶

トアリ宗旨ハ浄土宗ニテ麻野所ノ幸盛

寺ノ檀那ナリ死スル時ノ年ハ四十五歳ニテ





アリシトイフ年ワカキ時モ相撲ノ名乗ヲハ  
浮船トイフ其次ニハ山野井トイフ其後因幡  
伯耆ノ兩國ニハ敵スル者ナシト称セラレテ  
兩國梶之介ト名乗リケル 興禅院様御時代  
ノ名ヲ得タル古キ相撲ノ者共ノ許判ニ昔ノ  
日下関山鎌倉十七ト云レタル畔柳佐茂右工  
門ニハ五割モ相劣リタル相撲ナレトモ佐茂  
右工門カ死セル後ニハ今ノ梶之助ト立並フ  
者ハ有マシト称美シタリシカ果シテ他國ニ  
出タレトモ梶之助ニ循テ突タル者ナク京都

ニテ命モ相撲ノ上手ノ由ニ兩國梶之助ヲ云  
サル者ナシ其比ハ大坂ノ大山次郎右工門筑  
前之鉄砲仁大夫ト云テ兩國ト四天ニ天ノ  
相撲取ニテアリシカ共殊ニ兩國カ名ハ天下  
ノ人口ニ膾炙セラレテ今ノ世ニテ其名ヌク  
ラス卑賤ノ者ナカラモ天下ニ其ホマレ有ク  
ル者ナレハ爰ニシルス

母木坂

母木ノ新所ヨリ三四町東ニアル大ナル坂ヲ  
母木坂ト云



中ノ坂

母木坂ヲ東ノ方ノ禁ニオリ下レハ三町許之  
濱路アリテ又中ノ坂ニノホル此坂ヲ越テ東  
ノ山下ニ下レハ二三町許之濱路アリテ又向  
フニ大ナル坂アリテ登ル是ヲ杖ツキ坂トイ  
ハリ何レモ同シ様フナル大ナル坂ニテ難処  
ナリ此坂ハ杖ツキ坂ト母木坂トノ中間ニア  
ル坂ナレハ中之坂ト名ケテ云ナリ又杖ツキ  
坂ヲ喩テ山下ノ濱路ヲ歩ニ東ノ方ヨリ中ノ  
坂ニ登リカ、レハ坂之登リク手ニ二三軒ノ

茶肆アリ是ハ沢見村ヨリ別レ出タル在家ナ  
リ此山ハ沢見村ニ勝ルナル故ニ所ノ者ハ沢  
見坂トモイエリ鳥取ノ城下ニテ伯州ニユク  
ニ湖山ヨリ西ノ方ハ濱路ノ向フニハ大ナル  
坂アリ其坂ヲ向フニ下レハ坂ノ下ニ濱路ア  
リ濱路ノ向フニハ又同シ様ナル坂アリ其ユ  
クサキモ坂ノ下ハ濱下リテ又坂ヲノホル凡  
伯州ノ倉吉マテハ十六ノ坂ニ十六ノ濱アリ  
カ、レ難所ナル丁ヲハ他国ノ人マテモ知夕  
ルニヤ京都ノ誹諧師ニ雲鼓ト云モノ、坂行



シタル 俳諧 両国 船ト題 シタル 俳諧ノ書ニ十  
六ノ坂ニ 十六ノ濱ニ 難所ナルコトヲ書タリ

大崎之古城跡

中ノ坂ヲ鳥取ノ方ヨリ来レハ坂ノ右ニ又大  
トル高山アリ此高山ノ上ニ大崎ノ城迹アリ  
旧事紀ニ大己貴命ノ気多カ崎ニ到リマス  
ラ書レシハ此所ノコトナリ気多カ崎トイフ山  
ハ今イフ鷲峯ノコトナリ鷲峰ノ山ノナタレタ  
ル尾ツ、キ一里モニ里モアリ多クアル中ニ  
此トコロ三里余モツ、キテ北海ノ端マラ出タ

ル故ニ大崎ト云フ名ハアル也尾ツ、キノ山  
ニスクナレハ何レノ出崎ヲモ気多カ崎トイ  
フ此所ニアリシ城ナレハ大崎ノ城トイフ此  
城ハ何レノ時代ニ何ニ要害ニ築キタル城置  
ナリケン城ノウシロヲ街道ニシテ北海ノ方  
ヲ正面ニシテ繩ヲ張タルモノト見ヘテ海手  
ノ方ハ要害キヒシク海上ヨリ見レハ城ノ地  
形ヲワシク見ユル街道ニ通リテ山上ヲ仰キ  
見ルニ土手トヲホシキ跡ハ重々ニアレタ  
シカニ是コソ大崎ノ城跡ナルラントハ見ヘク



ス街道ノ方モ截然ト壁立シタル山ノ形ナレ  
ハタヤスク城内ニ葉コム事ハ成カクキ要害  
ナリ城主ノ名ハ寛正佐守ト云テ昔ハ屋形ノ  
旗下ニ属シタル小身ノ国侍ナリシカ屋形ノ  
威光モ衰微シテ国中モ思ヒノハ一城ヲ構ヘ  
村ヨリ村ヲ限リテ相互ニ攻合領地ヲ奪ヒ掠  
メテ獨立シテ威ヲ奪<sup>奪</sup>フモノ蜂ノ巢ノ如シ其  
ヲリフシ藝州ノ毛利大軍ヲ起シ席ヲ卷カ如  
ク出雲伯耆ノ方ヨリ当国ヘ雷発セラレシカ  
ハ小身ノ国侍トモ何ト楯ヲ突合ヘキ様ハナ

ク国中大カタ毛利ニ降参シタリ此城主ノ寛  
正佐守ニ降参セル中ノ隨一ニテ無二ノ味方  
ト成タリシニ上方ヨリ羽柴筑前守秀吉織田  
信長ノ命ヲウケタマハリ播戸但馬等ノ隣国  
ヲ切シタカヘ是モ同シク当国ヘ乱入セラレ  
シニ又其威風ニ恐レ靡キ秀吉ノ下知ニ隨順  
スル者国中ニ多クアリ終秀吉ノ下知ニシタ  
カサレ自国他国ノ浪人トモ皆悉ク一城ニ  
近取<sup>近</sup>コノ既ニ鳥取モ落城ニ及ヒケレハ鳥取  
ニ菟城セサル一城ヲ持タル者共モ多カリシ



カ攻ル共十キニテノレト自ラ開城シテ退散  
ケル寛土佐守モ大崎ノ城ヲ持カ夕へ毛利  
ノ後詰ノ来ルヲ待ラ加勢セント鑓ヲ嚙テ居  
タリシニ毛利ノ後詰ノ沙汰モナク鳥取ノ城  
ニ薨リタル者共ヲ捨殺シタリケレハ一味ノ  
因侍トモカヲ落シ落支度ノ外十カリシニ寛  
一人ハカリハ秀吉ノ大軍ヲ引ウケテ潔ク腹  
キラント城ヲ枕ト思ヒテ持コ夕へテ居タル  
トニ稻場民談曰去間秀吉公ハ当国仕置等成  
々ノ諸將ニ具サニ被仰付既ニ播州へ敗陣ヒ

ントシ給ヒケル処ニ伯州羽衣石ノ城主南條  
勤兵エ尉光次其弟小鴨左エ門尉元清方ヨリ  
飛脚到来シ云ケルハ藝州ヨリ吉川元春大将  
トシテ数千騎ノ軍兵ヲ率シ近日当城へ取カ  
ケ候催シナリ左様ニモ候ハハ後詰ノ加勢ヲ  
夕マハラスハ急難マヌカレ難キ由告来ル秀  
吉公思召ケルハ永ク鳥取在陣ニ諸卒疲労極  
マレ処ニ又伯州へ赴カンコト如何アルヘカ  
ラント案シ煩ヒ夕マへトモ若大軍ヲ以テ南  
條小鴨ヲ攻落サセテハ今マテノ大功ヲ無ニ



ナシ武名ヲ墜ス義クルハシ小鴨南條ニ城死  
後援ヲ頼ミ思フ処ニ其義トキトハ本意トキ  
義ナリタ、急ニ可救トノ義ナリケレハ諸卒  
モ疲レテハ見ヘケレトモ大將ノ下知ナレハ  
イサニス、ンテ打立ケル高中郡大崎ノ城ノ  
禁ヲ推クマフニ城主樋上佐右エ門城ニコモ  
リ居テ目下ニ見ヲロシテ鉄炮ヲ出シ火繩ヲ  
挟ミ鳴ツツシツシテ居ケレトモ秀吉公モノ共  
シ給ハスヤサレキ志ノ奴ナリトント仰セ有  
テ城ノ下ヲ心シツカニ推クマヘハ鉄炮ヲ打

カクルマテモナシ諸手ノ兵一責ニ責ヲトシ  
撫キリニシテ通ラハヤト云ケレトモ秀吉公  
ハ取合ヘカラス我ト退散シ退ヘシ手ヲ懸ル  
ニ及ハスト制シトモトク通リタマフ上思フ  
ニ秀吉ノ大器ナル咄ハ弥トスルニタラス小  
身ノ侍ノ私トシテ大軍ヲ見カケテ鉄炮ニ火  
繩ヲ挟ミ戦ヲ持クルハ武之道ヲ嗜ミタル義  
勇ノ侍世ニ例スクナキ者ナリイカニトイフ  
ニ大軍ノ下ナレハ必死ト相極メテ一城ヲ抱  
ヘテ咏ヘ居タル者ナリ然ルニ其城ニ手ヲ懸



タマハスト云テノノハト城トヲ通シテハ臆  
病ノ名ヲ惜ム嗜ミアル故ニ敵ノ色ヲ見セク  
ルゴテノ志ナレハ矢玉ヲ放ツニ及ハストテ  
モ敵スルコト能ハサルコトハ義ヲ知タレハ  
也ソレトテモ小敵ヲ見アナトリ城ヲ責タマ  
ハ、秀吉ヲ相手ニ取テ拒キ戦ヒイサキヨク  
腹ヲ切テ死ナンコト武士タル身ノ本望ナリ  
ト覚悟シタリト見エ秀吉ハ神ニ通シタル明  
將ナレハ早ク寛カ肺肝ヲ見スカシ給フ故ニ  
ヤサシキヤツト褒タマヒテ目ミカケスレテ

推通リクマフトヲホヘタリ民談ニ高中郡大  
崎ノ城ト書タルハアマリニ此所ハ気多高  
中ノ郡界ナレ共大崎トイヘハ気多々崎ナレ  
ハ気多郡ノ大崎ト書クヘシ殊ニ大崎ノ城照  
ハ気多郡ノ内ニアリテ見エ樋土佐右工門ト  
書タルモ誤リニ今気多郡大坂谷新宮村ノ  
平尾仁右工門ト云巨農ハ寛土佐守カ末葉也  
大崎ノ城主ハ我等カ先祖寛土佐守ト云タル  
者ナリト予ニ逢テ仁左工門カ咄ナリ稻場民  
談曰高中郡大崎ノ城主樋土佐右工門ト云シ



者ハ当国先代ヨリノ侍ニテ久シク彼所ニ在  
城ニタリシカ秀吉公当国ヲ治タマフ時既ニ  
ホロホシ給フ心アリシニ色々ワヒ言フ致シ  
領地ヲ指上ケワツカノ安堵ノ望ニシニヨリ  
其身勇武ノキコヘアリケレハ安堵ヲタマハ  
ル官部法印ニ属ラレケル官部カ旗トシラ  
千石ヲ領シ彼家来ノ如クニナリ大崎ニ在城  
ス此度モ官部兵部少補殿催促ニシタカヒ人  
数ヲツレ京都ニホリシカ少補殿滅亡ノ後  
ハ身ノ寄所ナクナリツ、爰カシコ流浪シテ

終ニユクヘナクナリニケリ是ヨリ大崎ノ城  
ニ滅却シテスム人モナク成ケレハ今ハ荆棘  
ノ旧原狐兔ノ栖ト成テケル上ニ本父ニ此度モ  
ト書タルハ慶長五年関原合戦ノ時ノ丁ナリ  
官部兵部少補ハ石田治部少補カ催促ニシタ  
カニ石田ト一味ナリシ故ニ治部少補敗北シ  
テノ後兵部少補ハ死罪一等恩免ヲ蒙リ奥州  
南部ニ流刑セラレ彼地ニテ死去セラレ永ク  
其家ハ断絶シクル也

氣多高草郡境



中ノ坂ノ到下ニ一里塚アリ塚ノ上ニ勝尔アリ此一里塚ヨリ榑カ鼻ノ到下ノ一里塚マテ一里ナリ東ノ方ハ此一里塚ヨリ中ノ茶屋ノ家ハツレニアル一里塚マテ一里ナリ鳥取ノ城下ヨリ中ノ坂ノ到下ノ一里塚マテ三里ナリ

因伯地理志曰自小沢見村到気多郡界五丁五十間

濱路此中四町五十一間坂道廣一間半為險阻

又曰自高中郡界到母木宿二十一町

街道廣二間母木坂十九町二十間道廣一間半為險阻

又曰自母木宿到濱村十九町十五間

濱路母木川廣十五間深一尺五寸可徒涉大

水無渡一日母木坂一町四十間道廣一間半

末恒保

此処ハ高中郡ナリ 伏野村 小沢見村 三倉村 内海村 内海中村 此五ヶ村ヲ合セテ末恒保トイヘリ 稻場民談曰当国ニ昔ヨ



リ言傳フル郷保庄ノ記一通アリ是ハ八上郡  
子ノ河内六郎左エ門ト云者所持スルナリ此  
内今絶タル所或ハ今ノ制法ト違ヒタル処ニ  
是ヲ尋子記ノ真ニ書付ル也

気多郡十八

坂本郷 大坂郷 大原郷 光元郷

宮吉村 大沢見 恒松保 富吉村

末用村 保共 恒末村 宇津見 勝見郷

日置郷 姫路村 麻野郷 勝部郷

鷲峰社 青屋村

恒末 今此名ノ所ナシ今高草気多ノ界伏野内

海沢見ノアタリヲ末恒ニ保トイフ此所ナラ

シカ気多高中ニ界今多ク混乱スト見ヘタリ

昔ハ此辺気多ノ内ニ見ヘタリ此記ニ大沢見

宇津見ヲ気多ノ内ニ入レリ

宇津見 今内海トカク今ハ高中ノ内ナリ

青屋村 明德記ニ 青屋庄トミヘタリ上此

全文ヲハ首巻ニ出ストイヘ氏早考ノ為ヲニ

贅出ス大己貴ノ気多カ崎ニ到マナシハ旧夏

紀ニ見ヘタリ気多カ崎トハ夕ニカニ此アタ



リ別シテ中ニ坂ノ下ト見ユ其下ヲシルセハ  
内海村ノ白兔大明神及伏野村ノ下ヲマラミ書  
サレハ成難ト故ニ他郡ノ地名ナレ氏末恒保  
ノ下ヲ爰ニシルスモトヨリ昔ハ末恒保モ気  
多郡ノ内タルコト古キ書ニハ順和名ニミハ  
タリ因ニ傳ヘ来レル中古ノ筆記ニモアリト  
云コトヲ證ヒシカタクノニ今此ニ置出セリ郡  
界ノ混乱ナケレハ此所モ気多郡ノ内ナレハ  
書入テモユルス方モアラント云コトヲ其コ  
トハハリノ為ノニ民談ノ全文贅言スル也

天神山

芝ハ中ノ坂ノ中ニテ大崎ノ城跡アル山トハ  
一段ヒキク離レテ東ノ方ニ森々タル松林ニ  
中ニ奇石怪巖ノハタチタルカ海ノ中ニ指出  
セリ其所ニ天満宮ノ御社アリ鳥取ノ方ヨリ  
中ノ坂ニホリカレハ坂ノアカリク千右  
ノ方ノ道端ニ石ニ鳥居アリ此山ノケシキ木  
立モノフリ岩石峰嶒トシテ浪打際ニアリテ  
此辺マテノ絶景マコトニ目カレセヌ所ナリ  
同ニ中ノ坂ノ内ナレトモ郡境ノ勝ルヨリ東



ノ方ヨリテ見ユレハ此所ハ高中郡末恒保  
ノ内タルヘシ伯州會見郡ニ所在之手間天神  
ト称スルハ以彦名命ナリ神社啓蒙卷五ニ撰  
紀文則手間天神者神代鎮坐也往々混菅原天  
神者非也上トアリ京ノ五條ノ天神ト号スル  
モ以彦名命ナリ本朝神社考卷三ニ按ニ以彦名  
命者高皇產灵尊之子也即是五條天神也今毎  
年節人皆詣此社取餅及白米为除疾病也盖  
神代之遺風邪上トシルセリ此氣多カ崎ハ大  
己貴命ノ来マセル神跡トレハ疑フラクハ五

條天神ナト、御同躰之天神カト思ヒテ今ノ  
祠宮永田丹治ニ尋クレハイヤ左ニ非ス北野  
ノ聖廟ヲ勸請シ奉ルトイエリキ  
沢見之池

坂ノ到下ヨリ直下ニ見ユル水碧テシテ池ヒ  
口ク池之ノクリ洲崎ニ処ニ池ノ中ニ出タル  
致景ニコトニ仙境トモ云マホシク霜景ノ赤  
ク紫キ黄ナル中ニ松カ枝ノ青ク色ニマシヘ  
タル其ケレキ此所モ六一ノ壯觀ナリ今ハ次  
第ニ埋ミテ大カタ田地下成ヌレハ殘ル池ト



テミ小池ニハ非ス此池ヨリ鰯イサヲスナドリテ  
城下ニヒリク是ノ溝尻ト名ヲ付ラ加路之湊  
之鰯ノ如クニハ賞翫ヲトサス沢見ノ池ヲ一  
名ニ溝尻トイフ村ノ名モ同シク溝尻村トモ  
イフ奥沢見村ハ気多郡口沢見村ハ高中郡ト  
リ口沢見ハ悉ク田地ト成テ今ハ池ノ形モ十  
シ

### 杖ツキ坂

中ノ坂ノ東ノ方ヘフリ下レハ三四所ホト濱路  
アリテ向ノニ杖ツキ坂アリ同シ様ナル坂三

ツ有カ中ニ此坂トリワキ陰阻ナレハ壯夫モ  
節ヲ用ユルニ有サレハノホリカタシトノ意  
ニテ名ケタルニヤ地理志ニ自内海村到小沢  
先村ト三町ト記セリ

### 内海村

杖ツキ坂ヲ下リテ五六町ノ濱アリ此濱ヲ鳥  
取ソ方ニ行ケハ右ノ方ノ山下ニ内海村アリ  
上ニ出ヒル中古ノ村名帳ニハ宇津見ト三字  
ニカケリ神紀ノ意ニヨレハ顯見ト書ヘキ歟  
上古ニ漢字ナケレハ三字ノ假名ニ書来ルコ



ト左アランカ古キ国繪圖ヲ見レハ沢見ノ池  
ヨリ流レテ海トツ、ケリ今ハ池ヲ埋ノタレ  
ハ海ト池トノ間ハ陸地ニテ遠ク隔タリテ見  
ユ上古ハ今ノ濱路ニ北海之鐵ヲ沢見テ流瀆口廣ク池ノ中ヲ入海ノ如ク潮モ指コミ  
タルラレ今モ心ヲ付テ見レハ処々埋殘シタ  
ル所カト昔ノ面影地形ニノコリ殆リ水アル  
所在リ是ヲ以テ三字ヲ書クル宇津見ヲ地形  
ニナソラヘテ内海ト書タルナルヘシ今ハ昔  
ノ内海村ノ名モ相忘ナラサル様ニ見ユ今ノ  
内海ノ村高ハ三百三十石余トカヤ

白兔大明神

内海村ヨリ西ノ方一町余モ山手ニ森々ト生  
シケリタル松林ノ中ニ宮社アリ濱路ヨリ三  
四町モ立寄サレハ見ヘス境内堅七十間ニ横  
六十間三間ニ横二間ノ神樂所アリ当社ノ丁  
ハ旧事記古事記共ニ此稻羽之素菟者也於今  
者謂菟神也ト然レモナク正シク其所ヲ指テ  
シルサレタリカホト正シキ神跡ハ他国トテ  
モ其類多ク有マシキ神跡ナリカ、ル其名カ  
クレトキ神跡ナレ其中古ノ世ノ乱レニ其跡



モ形モナク成テ人シラヌ様ニ退轉シケルニ  
当郡前ノ領主亀井武藏殿ハ卒去セラレ子息  
豊前守政矩殿ノ時代或夜ノ夢中ニ一人之老  
翁ノ立烏帽子ニ淨衣ヲ著タルカ豊前守殿ニ  
向ヒ申ケルハ我ハ公ノ領内ニ年久シクスノ  
ル白兎ト云フ神也昔ハ宮社ノ地モアリケル  
カ近代其アト絶テ以来ハ恒例ノ祭祀ヲ受ル  
トモトシ急キ社頭ノ真起シテ上古ノ神祀ヲ  
断絶スルコト在ヘカラスト示現シタマヘリ  
是ニ因テ気多高中ノ領内ヲ搜シ求メラレシ

ニ絶テ久シク成ヌレハ宮社ノ迄夕ニモ知タ  
ル者ナカリケル其中ニ一人ノ老人アリテ昔  
カハル大社ノアリシトイフ咄ヲハ古キ人ノ  
云ケル其レハ云々ノ所コソ昔ノ神迄ナレト  
申ケレハヤカテ此宮社ヲ再興シタマヒ神領  
二十石ヲ寄附シタマフ今モ先規違ハス世ハ  
澆漓ノ風ニウツリ無智無才ノ者ノニニシテ  
カクトフトキ名神ノ国ノ内ニアリシラス  
尊崇ヒサルコソ口惜ケレ時既ニ末代トイエ  
氏亀井ノ家ノ其威世ニ有カクキ御神徳ナリ



又当国八上郡福本村ノ田之傍ニモ白兎之宮  
社トテアリ神代此白兎大己貴神之御事ヲ八  
上姫ニ告テ大己貴神ト御夫婦ニナシ奉ルコ  
ト旧事紀古事記ニ本文ノコトトシ誠ニアヤシ  
ク小兒ノ昔カタリシキク如クナレトモ神国  
之不思議ハ今モ八上郡曳田村ニ八上姫ノ神  
社モアレハ其アタリニ白兎ノ社モ有ヘキ筈  
ナルヘシ玄朝カ因幡故事編ニ八上姫ノ屋敷  
或曰嚮ニ当国神社ノ日記ヲ見ルニ今ノ知頭  
郡用瀬御宮原ト云村ハ上古ノ八上姫ノ住シ

処ナリ其父ノ名ハ安藏長者トイフトアリ其  
記今ハ泯ヒタリ誰人ノ作ナレコトヲシラス  
トイヘリ又一老人カ説ニホノカニ聞ケルハ  
八上姫ノ父ノスマレタル所ハ今ノ<sup>注法</sup>美郡中  
郷ナリト云リ然レモ明證ナケレハニ説共ニ  
信シ難シ猶追テ尋子問ヘシトシルセリ予  
按ニ八上姫ノ父ノ名ヲ安藏長者ト云タルハ  
此アタリテ云傳フル俗諺ヲ聞テ書タルナラ  
シ長者トイフ号ハ人代ノ末ニアリシナレハ  
八上姫ノ父ノ安藏長者ト称スヘキ謂レトシ



大己貴命ノ当国ニ奉マセシコト紀ノ文ニア  
キラカニ知頭郡用瀬御ノ近辺ニ宮原村ト云  
村アリ宮原ノ村中ニ芦尾大明神ト云神社在  
リ芦尾トハ葦原醜男ノ中畧ニテ其祝ノ神モ  
大己貴命トリトイヘハソレニ相違モ有ヘカ  
ラス又此所之里諺ニ芦尾大明神ノ三面鬼カ  
娘ノ許ニ通ヒ給フ由ヲカクル其ヲモムキ大  
己貴神之妻<sup>オホスツニ</sup>大陶祇女子<sup>イタタキ</sup>活玉<sup>イタタキ</sup>依姫<sup>ヒメ</sup>为妻<sup>メカ</sup>国縁ヲ  
旧事記ニ書レシト粗相似タリ奥山家ニスノ  
ル卑賤ナル者凡ノ旧事紀ノ説ヲヌスミ取テ

口語スヘキニ非ス神代ニ似ヨレル丁ノアリ  
シヲ展轉シタル訛言ナルヘシ又法美郡中郷  
村ニ八上姫ノ父ノ住タマフト書タルモ旧事  
大成ニ大己貴命ノ上ノ山ニ宮作ルテヲハシ  
マストシルセハ彼是似カヨヒタル丁ノナキ  
ニシモ有サルカ中郷ノ里人モ其村中ニ八上  
姫ノ屋敷ノ跡アリト語レルモアリ其アタリ  
近キ奥谷村ノ氏神ヲ小早大明神トイフ是ハ  
宇信<sup>信</sup>神社ノ末社ナリ奥谷ヲ村人ハ昔ヨリ言  
傳ヘテ白菟ヲ祭レル社号ヲ小早大明神トイ



フトイヘリ八上姫ノ神社ハ八上郡曳田郷ニ  
アリ延喜式ニ賣沼神社ト載ラレシハ是ナリ  
今此神社ヲ里人ハ西飛天王トイフ又同郡福  
本村ニ白菟大明神トテアリ是モ此所ニ祭ラ  
ル、 箸ナラン此西飛天王ノ近キアタリニ  
袋川原ト云村アリ神紀ニ本文ニ大己貴神之  
負タマヒシ儀ヲ此所ニテロシ置タマフト云  
傳フル也八上郡ハ八上姫ノ御坐マセシ故郷  
ナレハタトヒ後人ノ附會シタル説ニテモ左  
コソ有ヘキナリ其餘ハイカトル子細トモ

知サレトモ昔ヨリ言傳ヘサル事跡ヲ今新ク  
ニ作リテ何ニ益ナケレハ作リテ云ヘキ様ナ  
シ一人カノ思ヒ寄テモ他人モ同シク云サレ  
ハ世ニヒロクハ云ツタフヘカラス必ス是モ  
上古ヨリ斯アリシモノナラン草昧ノ世ナレ  
ハ彼方此方ニ住セ給ヒラ道ヲ開キ人ヲ惠ミ  
タマフ神慮ナルハ知頭ニモ法美ニモ其外ニ  
モ神跡ノ有ヘキナラン此所ハ白菟ノ大己  
貴神ニ逢奉リシ本所ナレハ旧事紀ニ書レシ  
ハ此神社ナリ其神ニ功アリシ白菟ナレハ



上ニモ法美ニモ祝ヒ祭ラレタマフモ是又  
モ有ヘキトナリ

稻場民談曰今ハ此所ニテ大兔大明神トイフ  
因幡ノ記文ノ以テ見レハ老兔トイフヲ今字  
ヲ換テヨフニヤ<sup>レ</sup>トニルセリ此一章ノ上  
ニ白兔大明神ノ亀井武藏殿ノ夢ノ告ヨリト  
書タルモアヤマリ也是ハ子息豊前守殿ノ家  
督ニ成テノ<sup>レ</sup>也今此所ニテ大兔大明神ト書  
タルモアヤマリニソレヲ老兔ト云ヘシト料  
簡ノ付ラレニモ和訓ニウトキ誤マリ也因幡

ノ記文トハ何レノ書ナリヤ当国ニハ古キ記  
文ナキ国ナレハヲホツカナシ大兔トイフハ  
白兔ノ訛言ナリ白兔ト書テ<sup>アラト</sup>白兔ト云ム和訓  
ノ口傳アリト知サレハ成ヘシ例也ハ年中行  
事ニ白馬ノ節會トテ白之字ヲ青之字ニヨミ  
替ルカ如シ神書ノ中ニ<sup>アラト</sup>白兔大明神ト假名ヲ  
付タルアリ

高尾山

白兔ノ社ノ上ノ山ノ名ナリ  
不増不減之池



白兔ノ本社ヨリ下ノ方一丈許ノ溜池ノ名ナ  
リ白兔之御手洗井ナリ此池イカナル大旱魃  
ニモ少モ減スルコトナク又月ヲ経テ降ヤマ  
サル霖雨ノ時トテモ少モ此池水ノ増ト云コ  
トナレ故ニ不増不減ノ池ト名ケテ神所ノ奇  
特ナリト云傳フ播州曾根ノ天神ニモ不増不  
減池トテアリ昔ヨリ此神ハ痘瘡ノ守リ神ト  
云フレテ稀ニハ鳥取ヨリ参詣スル人モアリ  
多クカ、ル名神ノ当国ニアリト云コトヲ知  
サル人ノミ也神代ヨリ鎮坐ノ神迹ノ廢レタ

ルカ如キハ歎息スルニ余リアルナリ

### 金カ崎

杖ツキ坂ヲ下リ五六町ノ濱ヲ鳥取ノ方ニユ  
ケハ白兔ノ社ハ右ノ方ノ山下松林ノ中ニア  
リ内海ノ村ニ此アタリナレハ此所ヲ内海濱  
トイフ内海濱ノ向フニ高キ山アリ此山ハ海  
ノ端マテ出タリ街道ハ金カ崎ノ山ノ腰ヲ四  
五十間モマハリテ向フニ出レハ其処ヲ伏野  
濱トイフ山ノ腰ヲ通ル道ヨリ浪打際ヲ脚下  
ニ見ル昔ハ此道ノミヲ往還シタルニ近年



浪打際ト山ノ腰トノ間ノ岩間ヲ傳フ道ヨリ  
下ノ濱路ノ道ル駄馬ハ通り難シ昔ノ如ク山  
ノ腰ノ峯<sup>ト</sup>岐<sup>ト</sup>ヲ通ル浪クカキ時ハ常ノ人モ通  
リ難キ故ニ山ノ腰ニ付タル道ヲ通ル地理志  
ニ曰自伏野村到内海村十一町三十間濱路此  
中一町十四間阻道廣サ一間海風起則怒浪没  
道故行人登山而往此道二町四十七間道廣サ  
一間<sup>上</sup>ト書タルハ金カ崎ニトナリ  
卿談ニ池田備中殿ノ時代ニ湖山ノ池ノ水ヲ  
伏野ノ濱ヲ堀テ海ニ流シ其跡ヲ新田ニ十サ

ニトテ多クノ人夫ヲ駈出シテ堀セラレタル  
ニ池ノ端ニ土之底ヨリ一ツノ鐘ヲ堀出シタ  
リ是ハ昔山名ノ屋形布施ニ在城セラレシ時  
城下ノ林仙寺トイフ寺ノ鐘ナル由其鐘ニ銘  
アリ此鐘ハ今鳥取城下本願寺トイフ浄土宗  
ノ寺ニアリ此鐘ヲ堀出セル辺ナレハ此山ヲ  
名ケテ鐘カ崎トイフト云リ是ハ相似タル鐘  
之トニ二説アルヲ一説ニ云テ終ニ金カ崎ト  
名付タル由来ト云ナセルモノ也是ハ大ナル  
僻トナリ信用スヘカラズ湖水ヲ切ナカシテ



新田トナサントテ伏野ノ濱ノ堀セラレタ  
ハ亀井武藏殿ナリ備中殿ハ武藏殿ト同時代  
当国ノ領主ニテ邑美法美八上巨濃四郡知行  
高六万石ヲ領シテ鳥取ニ在城シタマフ其比  
武藏殿ハ気多高中二郡知行高三万八千石外  
ニ伯州ニ於テ五千石都合領知四万三千石ニ  
テ麻野ニ在城セラレ是ヲ備中殿ト云ルハ大  
ナル誤マリナリサレハ普請ノ時ニ鐘ヲホリ  
出シタルト云ルハ実正ナリ此鐘今ハ麻野ノ  
幸盛寺ニアリ上ニ速ルカ如シ又本願寺ノ鐘

ノ丁ハ因幡奇談ニ昔高中郡古海ニ和田七郎  
左エ門則基ト云者アリケリ後ハ入道シテ淨  
念トイフ此モノ布施濱ヲ通リケルカ女人一  
人アラハレ淨念ニ申ヤウ我レ其方ニ頼ムヘ  
キトアリ頼マレランヤトイフ淨念キ、テ何  
トイフシカアラハ此撞鐘ヲ鳥取本願寺へ送  
リ届ケ給ハレト云フ程々ト投ケモ千テ淨念  
カ僕夫ノ背ニ置タリ僕夫監儀ヲ負テ居タリ  
シカ其儀ノ上ニ彼ツリカ子ヲ置タレ共サレ



ニ重カラス不思議ニ思ヒトカラ暇乞シテ別  
レヌサテ淨念本願寺ニ参リ此由ヲ云入テ釣  
鐘ヲ渡シケルトソ今ニ在所ノ鐘ナリト云フ  
其前ノ夜住持ノ僧龍宮ヨリ鐘ヲ寄進ノ夢ノ  
告アリシト云リ淨念カ時代ハ宮部兵部殿ノ  
当国領知ノ時分ニアタレリトイフ上本願寺  
ノ鐘ハ備中殿城普請ノ時ニ時ノ鐘ニ用ヒテ  
遂ニ夕、キワリタルト民談ニ書シルセリ是  
ヲ見レハ本願寺ニ鐘ハ掘出シタル鐘ニ非ス  
彼ト此トニ説ラ一説ニ取合ヒタル由ナリ池

之端ノ普請ハ今勘フルニ中ノ茶屋ヨリモ東  
ノ方ニ池ノ端ナルヘシ然レハ金カ崎ノ山ヨ  
リ二十町余モ東ノ方ノ支ナリ何ソ二十余所  
モ東ノ池ノ端ヨリ鐘ノ出タリトテ此山ヲ名  
ケテ鐘カ崎ト云ンヤ又奇談ニ布施濱ト書タ  
ルハ写誤ナルヘシ布施村ノ辺ハ天神山ノ拵  
ナレハ濱アル土地ニ非ス是ハ伏野濱ノ布施  
濱ト書タル也伏野濱ハ一里余アル濱ナレハ  
七郎左エ門カ龍女ニ逢タルハ何レノ辺ニテ  
カ有ケン此山ヨリ遠方ナラニハ鐘カ崎ノ



因縁トハ成カクシテ因縁トスルハ此山ノ葬ニ  
テモ有タルカソレトテハ左モアラン是モマ  
コトシカラヌ咄ナリ海中ヨリ出タル名鐘ナ  
ル故ニ此怪談ヲ率合シタルナルヘシ愚夫愚  
婦ノゴシナシ咄虚実ヲ論スルモ口惜ケレト  
モ信スル人モ多ケレハ書シルス  
石原カ故事編ニ金カ崎里諺ニ昔ハカンサキ  
ト云テ文字ニハ神向サキトカケリ又コ、ニダ坂  
トイヘル所アリ是ハ出雲大社ニ神ノ通リタ  
コヒケル道ノ名ナリト言傳フトイユリ又海

上ニコウジマトイフ島ノ名ハ恋島トイフ言  
ノアヤマリ也出雲ノ神ノ此島ニ登リ給ヒテ  
八上姫ノヲハシマス方ヲ望ミ恋慕ヒ給ヘル  
故ニ恋島ノ名アリ上是ハ此アタリ里人ノ口  
談ナリ是ハ龍宮ヨリ鐘ヲ得タル故ニ鐘カ崎  
トイフトイヘル因縁物語ヨリハ同シ俗諺ナ  
レ共サモアリケニ関エ出雲大社ノ神トイフ  
モ大己貴命ナリ大己貴命ノ此アタリ気多カ  
崎ニ来マセルコト神紀ニ見ヘクハ出雲ノ  
神ニ通リ給フ道トイフハ左モアルヘシコエ



ン夕板トハ越来リ給フトノ意カ訛言マシリ  
ノ田舎詞ナレハ義理ワカチ難シ大己貴ノ此  
処ニ来リ給フハ八上姫ノ恋タマヘル御神憲  
ナレハソナタヲ望ミテ恋タマヘルトイフモ  
シカ有ヌヘシ伏野ノ濱ニ磯キワヨリ十八間  
海上ニ宮島トテアリ又四十間計モ澳ニ浦島  
トイフモアリ宮島トト恋島トイフカ神ノ  
ニ相恋シタル名ナレハ也カンサキノ傳語ニ  
テ金ヶ崎トイフマシキトハ非ス

伏野村

是モ恒末保五ヶ村ノ一村ナリ金ヶ崎之海辺  
ヲ出ハナルレハ鳥取ノ方ニ通ル濱路ノ右ニ  
見ユル山下ノ村ナリ村高五百九十石余家ノ  
數モ多シ此村ヲ伏野トナツクルコト里諺ニ  
白兔大明神ノ神代ニ此所ニフシ給フ由来ア  
ル故ニ伏野トイフトイヘソ旧事紀卷四曰夫  
所以奉避此国於大己貴神者兄弟二神各有欲  
婚稻羽八上姫之心共行稻羽之時於大己貴神  
負袋为従者率往於是到於気多崎之時裸兔有  
伏美于時兄事八十神謂其兔曰汝将为者俗此



海塩当風吹而伏高山尾上其兔隨八十神教而  
伏之時其塩從乾其身皮悉風見吹折故痛苦法  
之伏美其最後未犬穴羊逢神大已貴神見其兔言何  
由汝法伏兔答言僕在於歧島虽欲渡此地不由  
汝者隨其旗在皆悉率未始自此島迄気多崎背  
列伏渡尔吾蹋其上乍是詰渡爰知与吾族孰多  
如此言者見敗而列伏之時吾蹋其上詰渡未今  
將下地時吾云汝者我見欺言竟則伏最端和迄  
捕吾悉剝我衣服因此泣惠者先行事八十神令

以誨告浴塩当風伏故为如教者我身悉傷美大  
已貴神教告其兔今急往此水門以水洗汝身即  
取其水門之蒲黄敷散而輟轉其上者汝身如本  
嘗必差故为如教其身如本美今謂稻羽素兔今  
兔神是也于時兔白大已貴神云八十神者必不  
得八上姬雖負袋而汝命獲美於是八上姬答八  
十神云不聞汝等之言將嫁於大已貴神美已舊  
事ノ全文カクノコトシ遠キ神代之事ノ今未  
ノ世ニ至リ此所之地形ヲ以テ紀ノ文ヲ記シ  
ト丈尺ヲ以テ空空ヲ計ルカ如キモ八十ノ



モサレトモ上古ヨリ処々ニ其名ヲ呼テ神跡  
ヲ言傳フルコトアル故ニ牽強シテ書シルス  
紀ノ本文ニ稻羽八上姫トアリ稻羽トハ今ノ  
因幡国八上ハ因幡ノ郡ノ名ニノコリテ郡ノ  
中ニ八上比賣ノ神社アリ次ニ負袋為從者率  
往トアリ八上郡ニ袋川原トイフ地ニ名アリ  
テ里諺ニモ此所ハ大己貴命ノ負タマフ袋ヲ  
爰ニオロシタマフ故ニ名ツクトイフ於是到  
於気多崎トアリ即チ気多郡ニ気多崎トイフ  
所アリ今イフ鷲峯山ノ一名ナリ此山国中ノ

高山ニテ此山ノ十タレ四方八方ニヒロカリ  
尾ノツ、キニ里三里アルニ有テ此アタリニ  
見ヘワタリタル列峯ハ何レモ気多カ崎ナリ  
其中ニモトリワキ尾ノ末ナカク海ノ端マテ  
出タル山ヲハ大崎トイユリ是ハ中ノ坂ニア  
ル古城跡ノ山ノ名ナリ是ヲ大崎トイハ其  
外ハ小崎ニシテ大小ノ泉峯何レモ気多カ崎  
ナリ裸兔有伏トアリ気多カ崎ノ山ノナモト  
ニ伏野村トテアリ此里人ノ云ツタヘニモ白  
兔ノ神ノアシ給ヒシ所ノ名ナリトイフ浴此



海塩當風吹而伏高山尾上トアリ此海塩ト指  
クルハ今ノ内海伏野ノ前ナル海潮ノトナル  
ハシ高山尾上トハ高山ハ鷲峯タルヘシ高山  
ノ尾ノ上ニアレハ鷲峯ノ山上ニハアラスレ  
テ山ノトクレタル末ノトクイヘハ正シク此  
アタリノ山ノトニ相違ナシ白兔ノ社記ニハ  
内海村ノ上ノ山ノ名ヲ高尾山トイフトシル  
セリ僕在於岐島トアリ是ハ隱岐国ノトニ非  
ス隱岐国ハ海上四十里アリ紀ノ文ノ於岐島  
ハ澳島ニシテ伏野ノ海ノ澳ニアル浦島トイ

フ島ノトナリト社記ニシルセリ今急往此水  
門以水洗汝身即取其水門之蒲黄トハ此ア夕  
リニ水門ト云シ処今ナシ定ノテ是ハ今ノ沢  
見ノ池ヲ指テ云ンカ哉里トモナキ立カコ  
タル山々ノ谷合ナレハ神代ヨリモ此沢ハ有  
ヘキ所ナリ數散而振轉其上者汝身如本膚必  
差トアリ昔ノ沢見ノ池ハ中ノ坂ノ下ヨリ引  
マハシテ宇津見マテ其下流アリテ海エ出タ  
ルナレハ為如教トハ沢見ノ池ノ水ニテ其身  
ヲ洗ヒ沢ノ中ニ生クル蒲黄ノ數散シテ其上



ニ振轉タルヲ為如教トハシルサレタルカ今  
官社ノ前ナル不増不减ノ池ノ水ナト其身ヲ  
洗ヒ蒲黄ヲ取テ其上ニ振轉タリシ神迹ニテ  
モヤ侍ルラン其所ヲ宇津見トナツケタルモ  
紀ノ文ニ改<sup>改</sup>為如教其身如本トアレハウツク  
シクニユルト云コトノ中下略ナレハ中古ニ  
テハ漢字ヲ用ヒス宇津見ト三字ノ假名ニ書  
タルナルヘシ此トコロ中古マテ潮入ノ大沢  
ナリシカハ後ニ三字ノ假名ヲ内海ト書タル  
ニヤ紀ノ文ノ意ヲ以テ漢字ニ書ナラハ頭見

ト書ヘキカカク紀ノ文ヲ見テ相忘スルヤウ  
ニワサト作りコシラヘタルカ如クニ地名ノ  
符合スレコト自然ノ冥契カ神徳ノ不測トモ云  
ヘキカ

三倉村

是ハ勝見ノ通り筋ニテモナク此所ヨリモ山  
奥珠ニ高中郡ノナレハ若キテモ苦シカラ  
ヌコナレ氏末恒五ヶ村ノ内ニテモアリ珍シ  
キ神跡ナレハ慰<sup>慰</sup>ミノ便リニモト思ヒテ書シ  
ルニ村高五十三石ノ家数モナクナキ所ナレ



共希代ノ神照村中ニアリ以前ハ三倉村ト書  
タレトモ近代アラタマリテ御熊村トイフ誠  
ニ云ニモタラヌ小社ナレトモ延喜式ニ所載  
ノ阿太賀郡健御熊野命神社ハ是ニ社号ヲ三  
倉柱大明神トイフ即チ此処ニ在ル石ノ柱ノ  
自然石ヲ御神躰トスルノ義ナラン稻場民談  
曰三倉社ハ高中郡三倉トモ村ノ辺ニ在リ柱  
大明神ト号ス此社ノウシロノ山ノ崖ノ土中  
ヨリ石ノ柱ノコクチ二三寸或四五寸ハカリ  
ノ柱ノ積ヲケル様ニカサナリ合タケ出テ見

ユル柱ノフトサニ尺マワリ三尺マワリノ石  
柱ナリ其貌チ或ハ四角六角八角ソノマ、材  
木ノ引物ナトヲ削リ立タルヤウニ見ユルナ  
リ或ハ又其近辺其社ニ登ル階ナトモ皆カリ  
ノコトキ石ナリ奇異ナルナ共ニ上人ノ語リ  
傳フルハ此社ノ神石ノ橋ヲ作り隱岐国エ渡  
ラント一夜ニ作り立ラレシ処ニ俄ニ夜アケ  
ナナラスシテ其俣捨ツカレシ照ナリト云リ  
昔ヨリ云傳ヘケルナニヤ考カタシ上ト記セ  
リカク委シク書シルシテ其才モムキニ少シ



モ相違ナケレモ三倉ノ不思議ノ此所ニ至リ  
テ見サル者ハ書向ハカリテ見テ目ヲ駭カス  
丁ハ有ヘカラス予先年三倉ニ社参シテ見タ  
ルニ目ヲ驚カシ奇異トモ何トモ言語ヲ絶シ  
テ云ヘキ様ナシ今少シ民談ニ書タルヨリモ  
未タ見サルモノ、合点シヤスキ様ニ撰様ヲ  
イフトキハ譬ハ白著ヲ五抱モ十把モトキミ  
クシ杉形ニモリアケテ見タラシカ如シ其杉  
形ノ上ニ柱大明神ニ小社アリ本地ヨリ社ノ  
在ル所マテノ高サ八十間余アリ横五ヒロカ

リタル根マワリ六七十間ト見ユル本地ヨリ  
社エノホル八十間余ノ所エハ少モ土ナシ残  
ラス石ノ材木ノ入チカヘ積カサナリテアリ  
其上ヲ傳ヒテ登ル定マリタル道トイフハナ  
シ石柱ノ長サ道筋ニアラハレテ見ユルハ長  
短一定ナラス五六尺ノ石柱モアリ八九尺ホ  
トノ柱モアリ或ニツニ折タル様ニテ長サ二  
尺三尺許ナルモアリ何レモ四角六角八角ニ  
ケツリタル様ニテ其石ノハタヘ金剛砂ヲ以  
テ念ヲ入ラシカキタル如クニ理コマヤカナ



ル青石ナリソレヲノホリテ頂上ニ至テシレ  
ハ其所ハ積カサナリタル石柱ノ上ヲ掩ヒタ  
ル土ノ廣サ六七間四方平地ト成テアリ其所  
ニ柱大明神ノ社アリ社ノウシロシ見レハ其  
高サ三間余モアルラン屏風ヲ立タルヤウニ  
テサモ土ナク石ノ材木ヲ積カサナリタル其  
コクチ能ソロヒテ少モ出入ナクコクチ計ニ  
ユル其コクチ一木ノ大サ指ワタシ七八寸一  
尺ハカリニテ六角八角ノ石材木ナリ其アハ  
ヒニ細キ竹ノ指ヨミテ見レハ一二尺モ通ル

所モアリ積重子タル其上ニハ土厚ク掩ヒテ  
土ヨリ生タル推ノ木ナトノ大木ニ成テ数千  
本生茂リテ真黒ニ日ノ光モ見ヘヌカコトシ  
凡三倉ノ村ノ中ハ何レノ地ヲ掘テモ六七尺  
モ土ノ底ハ平一面ニ石ノ柱ナリトイフカク  
怪シキ石ノ柱ナレトモ余リ多クアレハ其所  
ノ者共ハ何トモ思ハス其石ヲ取テ家々ノ踏  
石ニシテアリ何レヲ見テモ石ユノ念ヲ入テ  
削リクテタルコトシ此石柱ノ削リ屑ナリト  
云テ谷一ツ削リ屑ノ如ク石ニテ填テアリ是



ヲコケテ谷ト云フ又此石柱ヲコシテヘタル  
時ノ欽道具ヲコシテヘタル神ノ社ナリトテ  
末社ニ鍛冶大明神トイフアリ播ノ石ノ宝  
殿ヲ見テ諸人目ヲ駭カストイヘ共此所ノ石  
材木ヲ見テハサノミ不思儀トハ思ハレヌ公  
儀ノ御用ニテ御大名ノ二三人モ仰セ付ラレ  
年数カ、リテ切リテ給ヒナハ出来マシキ物  
ニハアラス三倉ノ石柱ハ日本國中ノ人数ヲ  
集メテ五十年百年経タリト云テモ人カノ及  
フ物トハ思ハレズ此所ノ山ノ尾ツ、キ半里

許モアルラ伏野ノ方マテ出タル所ノ土ノ  
底モ悉ク此通りニテ金輪際マテ土ノ雜リナ  
ク石ノ柱ト見ヘタリ海ノ端マテ出タル山ノ  
鼻ハ上ニ速タル金カ崎トイフ山アリ金カ崎  
ヨリ出タル海ノ底モ橋柱ノ立タルヤウニ堅  
サマニ立タル石ノ柱ニ横ニ石ノ柱ヲ渡シテ  
組立タルコトクニ見ユルトコロ四五町アリ  
ソレヨリ沖ノ方モ上古ハ斯モアリツラノ共  
大濤ニクツレタルカ末ツ、カス海ノ底ニク  
ツレタル石ノ柱アリト昔舟磯トイフ所ニ居



タル老女ノ蟄人ノ咄ナリ是ヲ伏野ノ村人ノ  
尋ナレハ成ホト其咄ニ少モ相違ナシ春三四  
月ノ比風モナク浪シツカナル至極ノ晴天ノ  
時ニハ海上処々ニ石柱アラハレテ見ユルト  
イヘリイカサマ咄ハカリヲ聞テ未夕其实正  
ヲ見届ケサレトモ三倉ノ様子ヲ見テハ此ア  
タリノ上中海底ニテモ成ホトサモアルヘシ  
ト疑カハシクモ思ハレスカ、ル奇異ナルト  
コロ諸国ヲ尋テモ是ホトナナル不思儀ノ丁  
ノ有ヘキ様ニハ思ハレスコレ何トイフ丁ノ

神跡ナルヤラシ此地ニハ大穴年違命ノ到リ  
マシタル気多カ崎ナレハ如斯ノ神変奇妙ノ  
事跡ノ今ノ世マテモ残り傳ノルヤラシ其イ  
ハレノ絶テシレサルコソ遺憾ナレ







酒津村

是ハ母木保五ヶ村ノ一村ナリ  
 膝見ヨリ母木ノ新所ヲ通レリ  
 中程ニ左ノ方ニ通ル横小路アリ  
 是ヨリ十所余モ行マレハ酒津村ナリ  
 酒津村ニハ田地ナシ  
 少々谷合ノ畑ヲ作ルマテナレハ一軒モ耕夫ナシ  
 家ノ数ハ区内狭キ処ニ今ハ百軒ノ余モ家ヲ立コミタレハ  
 弥カ上ニ棟ノ数多ク見ユレ  
 氏悉ク獵師ハカリニテ  
 其外ハ職人高人也  
 此所東南西ノ三方ハ高山ニテ  
 屏風ヲクテ、圃ミタルコトク北ノ一方

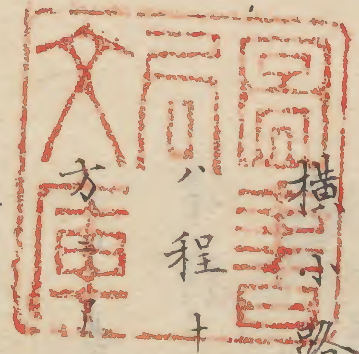




ハ渺々タル海面ナレハ他村ト交接スルコト  
ナク一処ハナレタル隱家ト云ヘキ浦里ナリ

樽谷

母木新所ノ横小路ヨリ酒津マテ十町余アリ



ハ程ナク左右ニ山アリテ酒津ニ行ケハ左ノ  
ル山ノ禁ノ道ヲ行ナリ坂ト云ホトノ  
道ニテモナク又平地ニテモナレシツ、登  
リ下リニテ七八町モ通ル其所ヲ名ケテ樽谷  
トイフ民語曰酒津ハ気多郡ナリ此所昔ハ人

家モナク海濱ナリシカ亀井殿時代ニ漢夫共  
家ヲ移シ来住シテ江村人烟ノ地トナレリ此  
由領主ヘ申上シカハ喜ヒ来リ見タマフ処ニ  
名ヲ聞タマヘハ樽谷トイフ由コトヘケレハ  
所ノ致景谷ト云ヘキ所ニ非ス樽ナラハ縁ヲ  
トリ酒津トヨヘトノタマヒシヨリ今ニカク  
名ツクルナリ当意即妙ノ作勢奇絶ニオホヘ  
侍ル又此時分ニハ処々ケ様ニ名ヲ換ヌルニヤ  
ハ上郡袋川原ノ辺ヲ布袋ト名ツケシモヨシ  
アル名ナリ是ハ誰カナツケシモシラスト



シルセリ

観音堂

樽谷ヲ登リ下リ其高ニ登リテ見ヲロセハ  
酒津ノ浦里ヲ一望ノ中ニ見ル村ノ人屋ハ東  
ノ方ノ山ハツ海キワヨリ家ヲ立ツラ子地  
勢ノ弓形ナルニシクカヒテ少モ間ナク漁家  
アリテ観音堂ノ後辺マテ立フサキソヨリ  
重ノニ比屋アリテ雞犬声相聞ヘ炊烟簇々ト  
メ立ノホル北ノ方ハ果シテ海面ニ水碧リ  
ニ沙明ニシテ卒々ト見ワタシタル海濱サナ

カラ掃除シテ庭ノ如クキレイナル廣ミナ  
レハ心モ晴ヤカニテ東南西ノ山ハ年ヲ経テ  
森々ト諸木生シケリテ市中ト遠ク隔タリヌ  
レハ桃源ノ隠レ里ニ入ヌルモ斯ヤ有ケレト  
思フ計也其レヨリ坂路ヲオリ下リヌレハ向  
テ東ノ方ニ見ユル亀ノ宮マテ四町余ハアル  
ラント見ユル卒砂ナリ左ノ方ハ海汀ニテ島  
々ノ数ヲホク右ノ方ハ砂山ニテ其上ニ一字  
ノ観音堂アリ是ハ寺号モナキ酒津村ノ辻堂  
ナリ立寄テ拜スルニ面容ノ殊勝ナ一目スレ



ハ人ヲシテ恭敬ノ心ヲ生セシハ何レノ作ト  
モ言傳フルコトナケレバサナカラ凡作トハ  
見ヘス長三尺計立像ノ聖觀音ナリ村人ニ是  
ハ何時代ヨリ此所ニ安置スル本尊ナルヤト  
尋ヌルニ何十年前以前共年数シレズ月日ハ正  
月六日酒津ノ海中ヨリ出現シ給フ出現ノ日  
ヲ祭日ニシテ例年正月六日ニハ村中ノ人此  
堂ニ相集マリ觀音講ヲ修スルト也昔ヨリ云  
傳ヘテ其夜ハ龍澄ヲ大悲閣ニクテマツルト  
云リ海中ニ木仏ノアルヘキ様ナシ察スルニ

酒津ノ澳ハ近國ノ廻船ノ往來スル海路ナリ  
ハ破船ノ船ノ中ニアリシカ木仏ナレハ海底  
ニモ沉マス風濤ニ飄蕩セラレテ此处ノ磯ニ  
打寄タルニ有ヘシサレトモ斯ルコト世ニ  
例マレタルナレハ此所ノ浦人ノ海中涌現  
ノ灵仏ト号シテ信敬スルニ宜ナリ此浦里ノ  
始マリハ亀井ノ領知ノ時代トイヘハ天正年  
中ナラン仏ノ出現ハ其比ヨリ後ノナレハ  
シ仏前ノ鯛口ニ明曆ノ年号ヲ彫タレハ明曆  
以後ノ觀音堂ニ非ズイカサマ百年以上ノ丁



ナラン

湊山

観音堂ヨリ海手ニ向テ東西ノ回顧スルニ西ノ方ノ山鼻ノ海上ニ出漲<sup>張</sup>テ松ノ生茂リタルニ村人名ケテ湊山トイフ

赤島

湊山ニ程チカク海上ニ出タル巨巖ヲ赤島トイフ

鶴島

赤島ヨリ少~~シ~~東ノ方ノ海中ニアリ毎年時節

定マリ有テ鶴多ク此島ノ上ニ相集マル他処ヨリ鶴匠ト云其時節ヲ知テ捕ニ来ルトソ

畳島

夷子島ノウシロニ平カナル島アルヲ畳島トイフ

夷島

観音堂ヨリ見ワタセハ磯キワニ何程ト算シレ<sup>レ</sup>ス奇石怪岩大小高下入マシリテ碁石ヲ並ヘタル様ニ見ユル水ヨリ一尺二尺三四尺或ハ一丈許モ出タルモアリ又五寸三寸或ハ水



ヨリ下ニ一尺二尺シツミテ見ユルモアリ石  
ノ色ハ青モアリ白モアリ赤モアリ黄ナルモ  
アリ紫ナルモアリ夕、繪ノ具ヲ以テ彩タル  
カ如シ其カク千状萬態ナレハ述ビカクシ  
其中ニ取ワキテ大ナル巖三所ニアリ西ノ方  
ニアルハ夷島トテ長サ七間ニ横五間アリ島  
ノ上ニ夷三郎殿ノ小社アリ獵場ナレハ何レ  
ノ時コソ浦人ノ勸請シツラノ先年此所ニ来  
リタル氏ニ庄屋彦右エ門ト云者ヲ呼テ尋ル  
ニ此小社ハ夷子ナリトイフ寺社所ノ帳面ニ

引合セテ見タルニ彦右エ門カ所言ノ如シ今  
年再遊シテ浦人ニ尋タレハ弁才天島トイフ  
小社モ弁才天ヲ祝フトイフ夷子ノ社ハ是ヨ  
リ東ノ方亀ノ宮ノ側ニアリトイフ社内ヲミ  
レハ相違モナク弁才天女ノ像アリユレ何ト  
シタル相違ソト尋ヌレハ以前ヨリ夷子ノ社  
ト云フ社内ノ神体ニハ弁才天アリ近キ比社  
人小寺主殿カ料簡トシテ此島ノ社内ニ弁天  
ノ像ヲ入ヲキ東ノ方ニ在ル社内ニ夷子ノ像  
ヲ安置シテ今ハ此島ノ名ヲ弁天島トイヒ東



ノ方ヲ夷ノ宮ト称ストイフ田舎トテ昔ヨリ  
定マリタル神体ヲモ自今ノモノスキニ歌カ  
ユル如斯ノ自由ヲナス故ニ処々ノ言傳ヘモ  
多ク混乱ストミヘタリ

### 中将島

右ニ書タル夷島ヨリ東ノ方ニ在リ大岩三ツ  
在ル内ノ西ノ方ヨリ筭テ第二番目ノ島ナリ  
此島ノ大サ長サ二間ニ横一間高サ一丈余ア  
リ巨巖ノ少モ土ナキニ数株ノ松ノ樹自然ニ  
生テ緑ヲカク潮風ニ揉レテ逆枝生サカリ松

カ根石ノ間ニアラハレ雨露ノウルホヒナテ  
ニテ年ヲ経テ少モ痛ミナキモ思ヘハ怪シキ  
モノ也松間ニ小社アリ是ヲ若宮トイフイカ  
ナル神具ヲ祭テ若宮トイフト村ノ庄屋彦右  
エ門ニ尋タレハ彦右エ門カ云クサマテ遠キ  
昔ノトニ非ス此所ニ中将ト名ヲ呼タル一人  
ノ道心者アリ何宗ノ僧トモ知レス何国ヨリ  
祭レル共シラス気多ノ郡中高中郡ハ潮山ノ  
池ニマワリテ限リテ其外ニ出ルコトトシ気多  
高中ノ村々ヲ托鉢シテ一日ノ糶アレハ其日



ヲ送リ明日ハ村々ヲ托鉢セリ托鉢ノ余度アル時ハ其エクサキノ一日ノ日ヲ送リカヌル者共ニ配分シテ一粒一錢モ蓄ルコトトシ常ニ酒ヲ好シテ飲ケル人ノ多フル錢米ヲ残リナク酒ニ代テ朝ヨリ暮マテ酒計リ飲テ食物ヲス、ムレ共ソレヲハ食セスイツノ間ニカ米飯ヲ食シケン終ニ喫飯セシ体ヲ見クル者ナシ獨リ酒ヲ買テ飲トキニ其アタリニ人アレハ酒ホシキカト尋子酒ホシキトイヘハ其人ニモ飲セ自モノム人ニ親疎ノ差別ナシ

夕、人カ酒ヲ強テ飲セコ、口ヨク醉タル体ヲ見テ悦モ其身モ醉卧テ野山ノキラヒナク其所ヲ宿トシテ倒レ卧テ日ヲ暮シ夜ヲアカス何レ村里ヲ住処ト定ムルコト一生ナシ人アリテ其孤食ナルヲ憫ミテ柴ノ庵ヲシツラヒ爰ヲ休ミ所トセヨトイヘハ其人ノ仁愛ヲカキコトヲ甚タ感謝スレトモ一処ニ心ヲ住コトムツカシキトテ一日モ其庵ニ居ルコトナシ托鉢シテ道ヲ通リカ、リテ百姓トモノ忙ケニ手ノ隙ナシト云テ聞テハ面ノ畔ニテ



モ頭陀袋ヲ投ステ祥ヲカケテ米ヲ運ヒ稻ヲ  
モ刈牛馬ニテモ牽アリキ手ツカラ鋤鍬ヲ取  
テ農業ヲタスケヌ浦辺ニテハ網ノ繩ヲ引テ  
手傳ヲナシ艫カイヲ取テ舟ヲ漕キトシテ人  
ヲ助クルトモハ筋骨碎身シテモ露ハカリモ  
身ヲ惜ム気色ナシサリトテ其債ト云テ錢米  
ヲ与ヘテモソレヲ取コトナシ酒ヲ飲セヌレ  
ハ悦ヒテ飲計リニカ、ル身ノムタラキモナ  
ク身ノイトマ有トキハ其ユクサキノ老若男  
女ヲ招キ百姓ト言モノハ年中イソカハシキ

ニ縁レテ後生ノ大事ヲシラスソレヲ不知シ  
テハ人間ニ生レ来レル甲斐ナシイサ其方達  
ニタフトキコトヲ諒和シテ閉シノレ其所ニ  
一所ニ来集シ給ヘト云テ村ノ迂堂ナトヲ説  
法ノ坐トシテ其イフトコロ親ニハ孝心ヲ尽  
シ夫婦兄弟ムツマシク  
持タル者ハ奉公ニ裏表ナク諸人ニ愛敬アリ  
テ不和ナラス人各職分アルモノトシハ其務  
メヲハ常ニ忘レズ一大事ト合点シテマノヤ  
カニ務ムヘシ神国ニ生レタル人ナレハ神明



ヲウヤマヒ奉リテ其身ノ災禍ナカラシム  
祈リ身ノ後ノ世ノ<sub>一</sub>ヲ心ニ懸テオコラフス  
仏息ヲ報シ給ヘト何ヤラシ<sub>一</sub>経文ヲ引テ仏ノ  
道ノタフトキ<sub>一</sub>共ゴマヤカニ説キカセラレ  
シカ氏モトヨリ一字不知ノ者ノミナレハ一  
坐カキリニテ一句モ耳ニ残ルコトナレ其時  
ニハヒコロノ乞食境界ノ中将法師トハ思ハ  
レス人<sub>ニ</sub>十<sub>ナ</sub>手ヲ合頭ヲ地ニツケテ恭敬礼拝  
シケル夏冬共ニ単衣一重ヲ著テ袈裟衣ナト  
モ破レチキレ肩ス<sub>レ</sub>結ヒテ袈裟トモ衣トモ

見ワカタス<sub>一</sub>是ヲ見カ子テ新シク<sub>一</sub>コシラヘテ  
典フレハ有ニ限リハ身ニカケテ破レスクレ  
ハ本ノ著ノ<sub>一</sub>低ナリ児輩ノ街道ニアソヒ居テ  
杖鉢ニテ通ルヲ見テ中将様ト呼カクレハ其  
所ニ立寄テ児輩ノ為コトヲ我モ同シク嬉戯  
シテ人ノ耳目ノ恥ルケシキモナク<sub>一</sub>过カ路ニ  
狂ニ遊フ又翁媪ナトノ家ノ前ヲ通ルヲ見テ  
中将様ト云テ招ケハ其家ニ入老人共ト同シ  
ク坐ヲクミ打クツロキ茶ヲノミテ半日モ吐  
ラシテ居ルカク其身ヲ持クツシテモ僧律ニ



夕ガノ様ナレコト少モナシ中將トハ出家ニ  
似合ナキ名ナレモコトノ名ヲハ包ミカク  
シテ云サリケン又ハ真言カ天台宗ナトノ御  
名ヲ付タル新祭意ノ年夕ケタル童形ノ時  
ノ名ヲアラタメサルカ年ノ比ヲ測タレモ今  
夕シカニ知タル者ナシ夏ノ日村々ヲ托鉢シ  
テ通シニ此辺ハ旱魃ノ田ノ水絶テ苗カレン  
トス何トソ雨ホシキト中將ニカタレハサノ  
夕マヒテモ今明日ハ降ヘカラス来ル何日マ  
テ待夕マヘ其日ハ必ス雨ヲ降セテ与フヘシ

ト約束シテ通ル家初ニハ此法師カ酒ニ酔テ  
ワケモナキヲ云テ通リツルト嘲ケリケル  
ニ果シテ其日ノ刻限モ夕カハス雨降タルヲ  
見テ狂僧カ浮ノ空ナルヲ云タルニ自然ト  
云合セタルハト云テ笑ヒケルサレトモ不思  
議ナルトハ此法師ニ頼ムト云タル村里ノ田  
地ニハ不足ナク其ウルホヒ満遍ニ行ワタリ  
他ノ村里ノ田地ニハ思ノ程ユキワタラス又  
霖雨ヲリツキテ晴ヲ中將ニ願ヘハ来ル何  
レノ日ヨリ止テ得サセントウケカフニ時日



少相違ナシカ、ル丁ハ毎年アルニ一度モ  
相違ナケレハ後ニハ其奇特ヲ感異シテ嘲哂  
スル者ハ一人モナク此人ハ直人ニ非スト云  
テ其名ヲ呼ラ中将様ト云テ背語ニモアシク  
ハ云サリケル是ハ忝キ丁ト云テ村中ニ合セ  
ラ米ニテモ錢ニテモ過分ニ與フレハ成程コ  
、ロヨク受ルソレヲ何ニスルカト見レハ遠  
近ノ貧人共ニ分ニ相忘ニ須<sup>願</sup>典シテ猶其余リ  
アレハ酒ヲ買テ人ニモ飲セ我モ飲テ手打拂  
テ一粒半錢モ蓄ヘスイツモ奉ノ乞食ノ境界

ニ居テ自ラノ樂ミトス是ヲ業<sup>儀</sup>ナシト諱名  
ヲ付テ笑フ者モアリイカントシテモ凡人ノ  
及ハレヌ無欲ナルフルマヒ世ニ有難キ道人  
ナリト夕フトム者モアリ人ノ心同シカラサ  
レハ毀譽ヒトシカラス奉生何丁ヲ修スルカ  
ト見ルニ称名誦經モナサス沙門ノ持ヘキ念  
珠タニモ所持スルユトナシ右ノ如クナル不  
思議アル人トイフ丁郡中カクレナケレハ一  
切身ニ願アル者ハ中将ニ此丁ヲ叶ヘテ給ハ  
レト頼メハ其人ニ心中ヲ有ノ俣ニカタレト



云フ其心事ヲ聞テ是ハ欲心ニ目ノ見ヘヌヨ  
リ事起リタル身ノ願ヒニ道ニタカフコトヲ  
神ニ祈ラハカナフヘカラスタトヒ一旦叶フ  
ト云テモ却テ後ノワサワヒト成ヘシ此ノ  
立願ヲハ止ニシテヨシト本人ノ得心スルヤ  
ウニ諫メテ所望ニ応セヌ時モアリ又人ニヨ  
リテ是ハ尤ノコト其願ヒヲハ叶ヘテトテセ  
ント云時モアリカクウケカヒテハ一願モ成  
就セサルハナシ其外熱病瘧疾ナトノ如キ時  
ノハヤリ病アルニ其祈リヲ頼メル中ニモ身

ヲ持タル者ニテモ各畜ハ心ヲテ藥資モナ  
クテ病ノ不愈セシコトヲ欲シテ此法師ヲ頼  
ムルト見テハ其人ノ心中ヲ察シテ病ノ療治  
ニハ我ヲ頼マンヨリハ上手ノ醫師ヲ頼ミテ  
療治スルヨリ善ハ無シト答テ何ト頼ミテモ  
其需ニ応セヌ今ニテ諸医ノ療治ヲ尽シテモ  
何ノ効驗ナク治法ニ書テ頼ムト言フカ或ハ  
医師ヲ頼ムコトモ成サル程ノ貧人ト見テハ少  
モ拒ムコトナク頼マレテ病人ヲ奉復セシム  
ルモ多クアリ寂初ヨリ此人ハ必受定業ナシ



ハ予カカニ叶ハヌト云テ其コトハリシ云テ  
頼マレヌモアリケル萬ツ物怪ナト云モノハ  
中将ヲ頼ミテ心得タルトクニ返答スレハ何  
ノ呪術モオコトハサルニ其言下ニ還復シテ  
夢ノ醒タルカ如シ右ノ礼物ト云テ興フル物  
アレハ多少共ニ受ルコトナシ是ヲ知タル者  
ハ一礼ノミ云テカマハス知サル者アリテ其  
ヘントスレハ余リ身ノ難義ナルト歎キタル  
カ痛ハシサニ其望ミテ叶ヘテ得サセタルニ  
テヨソアレ物ホシキト思ヒテカ、ル、ヲセ

ニヤトイト無真ナルケシキテ袖ヲ拂ツテ  
ナニヲモ顧ミスシテ立去ケル夏冬ノワカチ  
ナク単衣一ツニテ野山ニ起取シテ一生人屋  
ノ内ニ居サル者ナレハ雨雪ノ時ニハ何トカ  
スルト見処ニ蓑笠ヲモ着セサレトモ更ニ寒  
熱ノイトハシキ体モナク大雨ノ車軸ノ如ク  
ニ降シキル時ニ雨ニ逢テ外ヨリ来リテ人ノ  
家ニ入ヌルニ其スカクヲミルニ少モ雨ニ湿  
タル体ニヘスカ、ル不思議ナル人ナレトモ  
其貌ヲ乞巧人ナレハ何モナノワキマヘサル



田夫野人トモ其人ヲイヤシテ時トモスレ  
ハ悪マレ打擲シトトスル無道心ナル者モ希  
ニハアリケルニカ、ル幸キ目ニ逢クル時モ  
打突ラ腹ヲモ立テレス其人ヲニクメル心ナ  
シ又其中ニモ神カ仏ノ化身ニテヲハスラン  
ト礼拜尊信スル者アレハ我等ヲ左様ニ崇メ  
タマフ者ニアラス無徳ノ道心者ナレハ人並  
ニアイシラヒテ給ハレト少モ嬉アル気色モ  
ナシ其比相撲ヲ取テ其ホマレ天下隠レナキ  
兩國梶之助ト云タル者ハ母~~本~~ノ新町村ノ産

ナリ酒津村ノ隣郷ナレハ~~如~~ノ時ヨリ此法  
師カハエカリケル梶之助モ中将ノ直人ナラ  
サルヲ知テ所生ノ親ノ如クニウヤマヒケル  
梶之助カ幼名ヲ弥太ト云ケルカ漸ク年モ長  
クレハ我等ニ角ツラ入テタマハレ弥太ト呼レ  
テモ子共ラシク聞ユレハ名共ニ改ノテ給ハ  
レト頼ミケレハ中将ノ云ク成程尤ナリ然ラ  
ハ汝ノ名ヲハ梶之助ト改ムヘシ我ト親子ノ  
契約シタル其方カナレハ何ニテモ其證ヲ  
ツカハシタキナレハ何ヲカナト思ヘトモ



兼テ知タル境界ナレハ世財トテ寸鉄尺木ホ  
トノ物モ所持セス今日ノ引出物ニハ他一倍  
ノカヲ汝ニ興フヘシ汝幼年ノキヨリ相撲ヲ  
好シ何国イカナル者ト立向フトモ向フ人ヨ  
リモ汝ニ一倍ノカアルヘシ此トハ我死後夕  
リトモ汝一生ノ内ハ相違アルヘカラス他国  
ニ出タラン時ニ汝ヨリカマサリノ者ニ出合  
タラン時ハ手ト手ト組タル心ノ中ニテ我名  
ヲ念誦スヘシ必ス勝マケテ得サセント誓ヒ  
ケル一生ノ内其通りニ相違ナカリシカハ中

将ノ死後ニモ他国へ出ニト~~ル~~ル時ハ旅ノ装  
束ナカラ一樽ノ酒ヲ持参シテ若宮ノ社ノ前  
ニ瀉シ勝コトヲ祈リ暇乞シテ出立シヌ故国  
セル時モ私宅ニ皈ルコトナク旅ノ装束シナ  
カラ勝ヲ得タル報賽シテ後ニ母木ノ私宅ニ  
皈リケルカク有テ何ノ年ヤラン三月十日  
比ヒゴロ心安キ者氏ノ方ニ一樽ヲ提携シ来  
テ拙僧ハ来ル十三日ニ死スルナレハ今生ノ  
暇乞ニ盍セント村々ノ家々ニ立寄テ酒ヲ酌  
カハス何レノ人ノ心ニモ例ニカハラヌ酒機



嫌トミユレハ醉ノ依レニ童戯ヲ云テ是ヲ一  
坐ノ真ニシテ酒ヲ飲トラント心得テ大形ニ  
挨拶シケリ村々一通リ巡リスミテ酒津ノ村  
ニハ十三日ノ朝来リテ我ハ今日午ノ中刻ニ  
滅度ヲ此処ニテ取ヘシ在世ノ内ハ世話ニ十  
リケルト殷勤ニ礼謝ヲ述テ一樽ヲ出シテ暇  
乞ノ盃ヲ取カハサントイフ其ケシキ平生ト  
少モ違ハサレハ此村ノ者共モ醉タル法師ノ  
戯レ言ヲ申サルト思ヒテ眞実ノトトハ更  
ニ思ハス一通リ付スミテノ後ニ漸ク日中ノ

比ニナリシカハ今イフ往生鳥ノ上ニアカリ  
日輪ニ向ヒ合掌シニ玉立ニ立テ居タリ是ヲ  
遠ナカラ見ル者共アレ中將ノノサル、休シ  
見ヨ酒ニ醉テアラレヌ形ヲシテ人ニ見セラ  
ルト腹ヲ抱ヘテ笑フ者ハカリ也カク有テ  
半時ハカリモ身ノ動キナク一時ホト過テモ  
少モ動キナシ既ニ日没ノ比ニ成テモ未ニテ  
作リタル物ヲ其巖ノ上ニスエ置タルカ如シ  
是ハ不審トリトハシメ絶例シテ笑ヒタル者  
此モ其醒テオカシカラスイサ其側ニ立寄テ



様子ヲ見届ケ来レトイフニ成テ臆病ナル者  
共身ノ毛夕テ、誰ヨ彼ヨト云テモ尻コシシ  
テユカシヲナス時ニ長兵エト云モノ立ヨリ  
中將ノ亡骸ヲ巖ヨリ下ニ抱キテロシ村人共  
モ立合其アタリニ葬リケル後ニ長兵エカ咄  
ニ人間ノ死骸ニ如斯ノ死骸ヲ見サル也立寄  
テ見ルニ五躰スクハリ乾鞋ノ如クニ干堅マ  
リ持アクルニ張貫ノ人形ノヤウニ甚ク軽シ  
今マテハ人ニ貌チニテアリシカ誠トハ化人  
ニテモ有タルカト不審シテ又夕リ夕リサテ

中將ヲ葬理シテ未夕一七日~~ヲ~~過ケル内ニ村  
ノ庄屋ノ夢中ニ中將ノ精矣アラハレ来テ云  
ク我レ生前ニ種々ノ奇怪ヲ見セタルコトヲハ  
早ク忘レタリヤ然ル法師ト知ナカラ凡人ヲ  
葬リタルト同シク人ノ通ル道ニ端ニ埋ニ置  
テ牛馬ノ蹄ヲシテ踐シムルコト有ンヤ急キ  
社壇ヲ建立シテ一社ノ神ニ祝ヒ祭レ永ク此  
村ノ守護神トナルヘシト云テ夢醒ケル夜明  
テ不思議ノ夢ヲミツルモノカナト思ヒ居夕  
ル処ニ又一人早朝ニ来テ庄屋ニ逢テ昨夜カ



ヤウノ夢ヲミタリ此ノ告知シメントテ夜  
ノ明ルヲ待カ子テ来レリトイフ其ヲモムキ  
庄屋カ見タル夢トシモ夕カハス未夕其咄ヲ  
云モ終ラサル内ニ追付テ五人十人ツレ夕チ  
来テ庄屋ニ告ルモ同前ニテ村中ニ残ル者ハ  
一人モ十カリケリ村人寄合相談シケルハ是  
ハ捨置ヘキ一ニ非ス此人ノ平生ノ行迹ヲ思  
フニ更ニ人間ノ所作トハ思ハレヌ夕チノテ  
化人ニテアリタルヲト云テ母木ノ社人小  
寺ノ集ヲ頼ニ立往生セラレタル巖ノ上ニ社

ヲ建タキモノトシレ氏小サキ巖トシハ少モ豊  
地トシ其島ト相並ヒタル今ノ中将島ニ小社  
ヲ新建シテ若宮ト号シ御奉行処ニモ相違シ  
今ニ小寺カ持宮トナル今ニ願望アル者当社  
ニ参詣シテ其支ヲ祈ルニ立所ニ其験ヲ蒙ル  
者其筭シラズ報賽ニハ一樽ノ酒ヲ神前ニ持  
参シテ地ニ灌キテ礼拜ヲナス終焉ノ年イツ  
比ト知タル者トシ三月十三日ニハ相違ナケ  
レハ毎年三月十三日ヲ若宮ノ祭日トシテ巫  
祝相集ノリテ神樂ヲ奏シ村中ノ人モ参拜ス



ルハ恒例ノ儀式ナリ不思議ナリシト共ナリ  
右ハ彦右工門カ物語母木酒津ヲ始隣村ノ者  
ニ之開合セタルニ少モ其通りニ相違ナシト  
云ケル

追考ニ中將ノ死去セルハ何十年前以前ノ  
ナラント村老共ヲ呼ラ合議シタル共酒津  
村ニハ知タル者一人モナシ社家ノ手前ニ  
ハ書レルニ置タルモノモ有ニカト母木ノ  
小者主殿カ方ニ立寄テ尋タレトモ何ノ筆  
録モナシトイフ今モ西国祝之助カ享年寄

テ母木ノ新町ニ在リ梶之助カ後家ニ逢テ  
梶之助ハ何歳ニテ死セリヤト問タレハ後  
家カ曰ク梶之助ハ宝永五年正月廿四日四  
十五歳ニテ死セリト答フ今年ヨリ四十五  
年以前ハ寛文廿年ニアタルナレハ梶之助  
ハ寛文六年丙午ノ年ノ生レ也梶之助カ中  
將ニ角ヲ入名ヲ替テ給ハレト頼ニタルハ  
大形梶之助カ十四カ十五カ十六ノ年ノ比  
ナラント相違スルト云テモ一年程ノ前後ナ  
ラント十四ト見レハ其年ハ寛文六年ヨリ十



四年ノハ延宝七年ナリ十五ナレハ同シク  
八年十六ナレハ天和元年ナリシカレハ延  
宝七八年ノ比ハ夕シカニ中将ノ存命ナル  
ニ相違ナレ梶之助カ他国へ相撲ヲ取ニ出  
タルハ梶之助カ廿歳許ナレハ梶之助カ廿  
歳ノ年ハ貞享二年ニ当ル 其時ニハ中将  
ハ死シテ一社ノ神ニ祝ハレタルナレハシ  
然レハ中将ノ落命ハ延宝七八年以後貞享  
二三年以前ナラン 延宝七年ヨリ貞享三年  
マテ年数八年ナレハ其間ニ死去シツラン

是ヲ以テ考フレハ貞享元年ニ落命シタル  
ト見テ 今年宝暦二年マテ六十九年ニ成  
ルナレハ大畧ヲイエハ中将ハ七十年前  
ノ人ナリ

此島ハ中将島ノ東ニ在リ三ツ共ニ相違テ其  
間サノニ遠クハナシ西ノ方ノ夷子島ヨリ三  
番目東ノ端ナリ此島ハ長サ十八間ニ高サ六  
間アリ三ツカ中ニ高ク大キナレ故ニ高島ト  
イフ島ノ上ニ方二尺許ノ社アリ春日大明神



トイフ昔イカナル子細ニヤ亀井武藏殿ノ勸  
請セラレタルト云リ島ノ上ニハ教百株ノ松  
生茂リテ森ノ如シ

前島

是ハ高島ノ前ノ磯キワニ五ツ六ツ水ヨリ一  
二尺ツ、出タル大巖ヲ高島ノ前ニアレハ前  
島ト名ケタリト云リ

観音島

是ハ前島ノ中ニ在ル一島ナリ今ノ観音堂ノ  
本尊此島ヨリ涌現シタコノ故ニ観音島トツク

往生島

満潮ニハ没シテ水ノ上ニ見ヘス干潮ニハ頭  
ハレテ出ルト観音堂守ノ物語ナリ

是ハ中将ノ示寂セル時ニ此巨巖ノ上ニアカ  
リ日中ノ日輪ニ向ヒ合掌シテ立セヒラレシ  
処ナリ村人ハ往生島一名ニハ中将島トモ云  
リ同シ名ノニケ所ニ在テハ給<sup>紛</sup>アレハ往生  
島ト呼テ可ナリ委シクハ上ニシルス

ワンドウ

是モ岩宮ノ社アル島ト高島トノ間ノウシロ



海中ニアリ巨石ノ中ニ大ナル穴アリテ水底  
フカシ昔此処ニ鰐スミタルトイフ文字ニハ  
湾島ト書ヘキカ

中将墓

樽谷ノ坂道ヲ登リ酒津ニ下リコム処ニ通ル  
道ヨリ三四尺モ高キ所ニ小許ノ卒カナル地  
アリ酒津<sup>津</sup>ニ下レハ右ノ方ナリ此地ハ村中ノ  
亡者ヲ葬ル所ナレハ中将ノ墓ノ外ニモ墓所  
多クアリカタホトリノ浦里ノ丁ナレハ墓ト  
云テモ石塔石碑ヲ立ルコトナシ以テ土ヲ盛

テ其上ニ小石ヲ多ク積ガサ子タルノミナレ  
ハ何人ノ墓トモ所ノ者ニ尋サレハ知カクシ  
中将ノ墓トイフモ右ノ如シ墓ノ測ニ一株ノ  
小松アリシカ今ニアリヤシラス

亀宮

観音堂アリ見レハ東ノ方ノ山下三四町モ向  
ノ村ハツレニアリ是ハ近年ノ摂州様ノ御創  
建アリシ宮社ナリ浦人ニ尋ヌレハ去ヌル享  
保元年辛酉四月 御姫様御同道アリテ勝見  
工御湯治ナサレシニ同月廿一日 酒津ノ御遊



覽ノ為メ此所ニ御出アリシカ漁人ニ網ヲオ  
ロサセ給ヒタルニ一ノ大亀網中ニカ、リ出  
ル大サ徑三尺六寸横二尺八寸高サ一尺二寸  
其貌千世ノ常ノ物ニ非ス此処始マリテ以來  
終ニ如此ノ神亀ノ浮ヒアカリタルコト前代  
ニモ未ク聞エ及ハサル珍トナリト漁人共モ  
言ケル村中ノ老弱男女ニ至マテ是ハ希代ニ  
トトテ見物ニ出ル何カ様ニモ神亀ノ精霊ヲ  
一社ノ神ニ祝ヒ祭リテ後世ノ人ニモ傳ヘ知  
シノ国土豊饒ノ守護神ニモトナシムヘシト

ノ思召ニテ此大亀ノ頓テモトノ海中ニ放  
キタマヒ此所ニ亀ノ宮ト号シテ社ヲ草創シ  
タマフ遷宮ハ五月六日ナリ其アリテ釣ニ  
出タル浦人ノ釣針ニカ、リテ一ノ美石ヲ得  
テ畝ル四月ノ末ツカク雲州日御崎ノ神前海  
中ニテノコナリ其石ノ岡ニ二尺七寸三分重  
サ三十六斤カタチ円ニ青白ノ色ニテ膏コマ  
ヤカニイツクシク温潤ナリサハカリノ大十  
ル玉石ワツカナル釣線ニカ、リテ深キ海ノ  
底ヨリアカリ酒津ノ漁人ノ手ニ入タルモ不



一 思議ナリ亀宮ノ神体ニハ何ヲカ形代ニ十サ  
ニ白幣カ鏡カナント評議區々ニテ一決セサ  
ル折節ニ此玉石ヲモテカヘリタルモ思ヘハ  
神亀ノ感応ナラントテ即チ其玉石ヲ社内ニ  
オサノ神躰ニ用ヒラレタルト承リ及フトカ  
クレリ

北條五代記卷八日閑シ 昔関東管領上杉憲  
政ト北條平氏康ト弓矢ヲ取テ止コトナシ然  
ルニ公方晴氏公上杉ト一味シ天文十四年ノ  
春武州河越氏康城ノ大軍ヲモテ取マキ責ル

一 関東諸侍モ悉ク一味ス氏康先勢ノ故合戦カ  
ナハスシテ兩年通路ヲトメテ城ニ中三千余  
人薨ヲク者トモ兵糧ツキ既ニ餓死ニ臨ムニ  
付テ氏康城ノ者身命ハカリヲ助ケラレハ  
ニ於テハ城ヲアケ渡スヘキ旨和卒ヲツクス  
トイヘ共皆討果スヘキ憤リニ依テ唯義ニ及  
フ氏康此上ハ一合戦シ運ヲ天ニ任セ宿意ヲ  
達セント思ヒ定ノラレハニヨツテ伊豆箱根  
西所権現三島大明神へ御祈禱ノ義アリ鎌倉  
八幡宮ニ於テ如意輪ノ秘法ヲ修セラレ別シ



テ当所松原大明神ノ宮寺ニテ護摩ヲ修シ善  
行ヲ尽シ給ヒヌ然処ニ同シキ年三月廿日ノ  
日中大亀ヒトツ小田原浦ノ真砂地ニハヒアカ  
ル所人是ヲアヤシミトテ持来テ松原大明  
神ノ池ノ辺ニオク八人カカニテ持ワツテフ  
程ナリ氏康聞召大亀陸地ニアカル一日出夕  
キ瑞相ナリトテ即刻宮寺ニ出御アリテ亀ヲ  
見タマヒ仰ニイハク天下恭平ナルヘキ前表  
ニハ鳥獸早出現スル往古ノ吉例多シ是ヒト  
ヘニ當家平安ノ奇瑞魚ヲ神明ノ示ス所ノ幸

ナリト御感悦斜ナラス竹葉宴醉ヲス、ノ一  
家一門悉ク参集列候シ盃酒数巡ニ及フ万歳  
ノ祝祠ヲノヘ給ヒテ後件ノ亀ヲ大海ヘ放ツ  
ヘシト有シカハ海ヘソ放チケル此亀小田原  
ノ浦ヲハナレス浮ヒテ見エルト五日氏康  
軍兵ヲ率シ武州ヘ出馬河越ノ地ニ押寄天文  
十五年四月廿日午刻ニ至テ合戦シ氏康討勝  
テ公方晴氏公上杉憲政ヲ追討シ猛威ヲ遠近  
ニ振ヒシカハ関東諸侍此イキホヒニ懼レ悉  
ク馳来テ幕下ニ付ヌレハ此一合戦ニ関八州



ラオサノラレタリ猶不思議アリ此亀陸へア  
カリシハ三月廿日ノ日中トリ此合戦モ同四  
月廿日午刻ナリ日刻タカハス奇瑞ノシルシ  
頭シタルト皆人是ニ感セリ亀ハ万歳ノ生類  
是ニ依テ千秋ノ鶴ノ声ニ五嶽ノ峯ニヒケ  
ハ萬歳ノ亀海中ニ涌出シテ蓬萊爰ニ現スト  
イヒテ日出タカリケルト是ナリ 已上トシル  
略抄  
ヒリカク其亀ノ出現スルモ明君ノ徳ニ感通  
シテ御当家末御繁栄ノ嘉瑞ノ示現スルモノ  
ナリ

夷社

亀宮ノ側山ノ方ニ在ル小社ナリ

大巖

是モ亀宮ノ近キ所ニ大巖ノ海上ニ挺出シタ  
ルヲ云フ其アツリニ十間許ノ波土ヲ築テア  
リ颯風アラキ時ノ洪濤ヲ避ンタメナルヘシ

松影山

亀宮ノウシロノ山ノ尾サキ海ノ中ニ揖出タ  
ルニ松林ノ茂リタル山鼻ヲ松影山トナツク

鳥帽子島

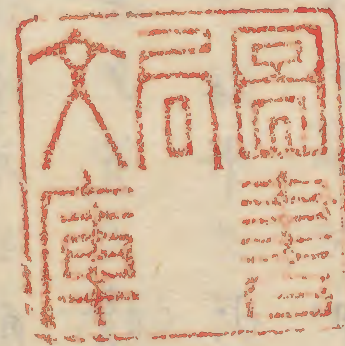


是ハ松影山ヨリモ東ノ方ニヨリ磯キワヨリ  
モ四五町其余モ澳ニアリ其貌チ風折鳥帽子  
ノ如クナレハ島ノ名トスル也陸ヨリ見テモ  
ヨホト大ナル島ナレハ其島ニ千カツキテハ  
見タルヨリモ大ナル島ナルヘシ海中ニ磐石  
ノ出テ見ユレ凡千泻ノ時ニハ島ノ根ニ平砂  
ナリ廣サ疊ヲ敷ツノ夕ランニハ二百疊ノ余  
モ敷ヘキホトニ見ユルトイフ此島ハ杖ツキ  
ノ坂ヲ下リテ内海伏野ノ濱ヨリモ海上ハル  
カニ見ユル浦人ノ云ケルハ春ノ日ノ長閑ナ

ル比一葉ノ舟ニ棹サシテ此島ノアタリヲ漕  
ノクレハ彼島ニ色々ノ名モシラヌ珍シキ貝  
殻多ク或ハワカノ海索麴ナトノ海藻アリソ  
レヲ取テ佳肴トシ醇酒ヲ舟中ニテ酌カハス  
人モアリ甚夕気ノ晴タル慰ミナリ又此島ノ  
根ノアタリ海中ニ大ナル亀アリ昔ヨリ此島  
ノ左右ヲハナレズ甲ノ大サ八九尺一丈モ有  
ヘシト見ユ甲ニ牡蠣ナト多ク取ツキ青苔ヲ  
帶タリ遂ニ人ニモアタラス大カタニテハ海  
ノ上ニモアラハレス釣ニ出タル獵師ノ自然



ニ見合スルコト希ニアリトイエリ



勝見名跡志卷之四終



